

平成22年 6月 1日現在

研究種目： 基盤研究（B）
研究期間： 2007～2009年度
課題番号： 19320032
研究課題名（和文） 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究
研究課題名（英文） Fundamental Research on Paper and Handwriting Styles
in East Asian Calligraphy History
研究代表者 島谷 弘幸（SHIMATANI HIROYUKI）
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・部長
研究者番号： 90170935

研究成果の概要（和文）：

本研究課題では日本、中国、韓国に残る装飾料紙を使用した書の作品について、その書の特徴の詳細を調査・データ化するとともに、料紙の科学的分析を行なうことを目的として、まずは国内外の関連作品のデータ収集を行ない、そのうち約200件の調査を実施した。それらの調査結果はデジタルデータで蓄積し、東京国立博物館での陳列に活用しながら、研究成果報告書を作成し公開している。

研究成果の概要（英文）：

This project dealt with examples of calligraphic works on decorative paper preserved in Japan, China, and Korea, to study the details of the calligraphy styles and to conduct scientific analysis of the decorative papers. Approximately 200 works were selected for thorough research after basic data were collected relating to applicable examples in and out of Japan. The research results are now accumulated in digital format, being beneficial to exhibition activities at Tokyo National Museum. A research report has been published for public use as well.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,800,000円	1,140,000円	4,940,000円
2008年度	5,200,000円	1,560,000円	6,760,000円
2009年度	5,100,000円	1,530,000円	6,630,000円
年度			
年度			
総計	14,100,000円	4,230,000円	18,330,000円

研究分野： 日本美術史

科研費の分科・細目： 哲学 美学・美術史

キーワード： 美術史

1. 研究開始当初の背景

書には、さまざまな鑑賞のポイントがあるが、その一つは、本来、文字が持っている造

形的な美しさである。より正しく理解・鑑賞するためには、書の特徴を個々に分析する必要がある。

また、書道史において料紙に関する科学的な研究は、ほとんど行われていなかった。その理由は、これまでの料紙研究のほとんどが、作品そのものを直接の対象とせず、文献をよりどころとしていたためである。そのような傾向は日本だけでなく、書の研究の盛んな中国・韓国においても同様であった。

東アジアの書道史について、日本、中国、韓国の、それぞれの書風と料紙の変遷を概観すると、相互に密接な関係があり、日本の遺品は中国や韓国から伝来した書風や料紙をさらに発展させているところに特色がある。本研究課題をすすめていく上で重要なことは、これらの国の研究者や機関と連携をとりながら、それぞれの書風と料紙に関わる共通点や相違点を正確に把握することにある。

2. 研究の目的

東アジアの書道史において、装飾料紙に執筆された名品を対象に、書風の時代的な変遷ならびに筆者の個人的な特徴を明確にする。また、書写に用いられた料紙の製作技法を解明して、書風と料紙使用についての関連を把握することも目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、美術史的調査と、料紙の科学的分析調査とに大きく分かれる。

(1) 美術史的調査(書体・書風の分析および作品制作の時代背景についての調査)

①書体について、篆書・隸書・楷書・行書・草書の区別や、混在する状況を具体的に明らかにする。

②筆の傾きや字形の特徴など書風形成の要因になる筆法の特徴を調査、記録する。

③書誌・伝来に関する情報(法量、一紙の行数、一行の文字数、料紙の装飾や文様など、出典、伝来、付属品など)の調査をする。

(2) 料紙の科学的分析調査

具体的な方法としては、光学顕微鏡を用いて繊維状態を観察し、紙の原材料である植物繊維等の同定を非破壊の方法で行う。また、繊維以外にも、料紙装飾部分の顕微鏡観察と撮影を通じて、技法や保存状態に関する考察を適宜行う。作品の紙質調査を分析し、その結果の比較検討を行い、本研究で得られた知見を新たにデータベースへ追加する。

4. 研究成果

(1) データ収集

日本国内、韓国、中国にどれだけ関連作品が残されているか、データを収集した。とくに今回研究の中心となった装飾料紙を使用した古筆に関しては、その所蔵先など詳細なデータをまとめることができた。

(2) 調査

国内では、次の所蔵先で調査を実施した。

東京国立博物館
京都国立博物館
京都・泉屋博古館
京都・陽明文庫
愛知・名古屋市博物館
愛知・徳川美術館
大阪・大阪市立美術館
東京・宮内庁三の丸尚蔵館
高知・山内家資料館
東京・大倉集古館

国外で調査したのは、次の所蔵先である。

韓国・国立中央博物館
中国・西安博物院
中国・西安碑林博物館
中国・陝西歴史博物館
中国・遼寧省博物館
中国・香港中文大学文物館

調査においては、所蔵先の許可を取りながら作品の料紙に関して光学顕微鏡を使用した写真をできるだけ撮影し、料紙の科学的調査を実施した。同時に、書の特徴を詳細に調査し記録を行なった。

(3) データの蓄積と公開

調査を行なうことができた約 200 件のデータは、写真データと合わせてデジタルデータでの蓄積を行なってきた。それらは、東京国立博物館での展示に活用しはじめている。2008 年度には特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」(11 月 5 日～12 月 14 日)を開催し、調査データの公開をした。また、2009 年度には研究成果報告書を作成し、関係者に配布を行なっている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 18 件)

- ① 島谷弘幸, 「料紙の価値と保存—唐紙を中心として」, 『日本美術品の保存修復と装潢技術』, 4 号, クバプロ, 査読無, 52-61, 2009 年 12 月
- ② 赤尾栄慶, 「料紙に残された情報—古写経を中心に」, 『日本美術品の保存修復と装潢技術』, 4 号, クバプロ, 査読無, 26-39, 2009 年 12 月
- ③ 島谷弘幸, 『和様の書』日本の美術 519, ぎょうせい, 査読無, 2009 年 8 月
- ④ 神庭信幸, 「低炭素社会と共存する文化遺産の保存(東京国立博物館の取り組み)」, 『文化財保存修復学会第 31 回大会要旨

- 集], 文化財保存修復学会, 査読有, 36-37, 2009年
- ⑤ 神庭信幸・和田浩, 「緑青による紙の損傷に対する保存処置法の研究開発」, 『文化財保存修復学会第31回大会要旨集』, 文化財保存修復学会, 査読有 116-117, 2009年
 - ⑥ 高橋裕次, 「朝廷と和紙—図書寮紙屋院を中心に」, 『皇室の名宝—日本美の華』, 東京国立博物館, 査読無, 16-23, 2009年
 - ⑦ 富田淳, 「趙之謙小伝」, 『趙之謙とその時代』, 財団法人台東区芸術文化財団発行, 査読無, 2-3, 2009年8月
 - ⑧ 恵美千鶴子, 「扇面法華経冊子模本—岡倉天心・小堀鞆音と帝国博物館の模写事業」, 『MUSEUM』第621号, 東京国立博物館, 査読有, 29-62, 2009年8月
 - ⑨ 丸山猶計, 「近世前期妙心寺派墨蹟の特色」, 『妙心寺』, 東京国立博物館・京都国立博物館・読売新聞, 査読無, 32-34, 2009年
 - ⑩ 島谷弘幸, 「道風・行成の国宝白氏詩巻一和様の名品」, 『正木美術館四十周年記念展「禅・茶・花」図録』, 財団法人正木美術館, 査読無, 12-13, 2008年9月
 - ⑪ 島谷弘幸, 『文人の書』日本の美術 504, 至文堂, 査読無, 2008年5月
 - ⑫ 高橋裕次, 「光悦と宗達下絵料紙」, 『大琳派展』, 東京国立博物館, 査読無, 308-312, 2008年
 - ⑬ 高橋裕次, 「料紙よりみた白河結城家文書について」, 村井章介編『中世東国武家文書の研究—白河結城家文書の成立と伝来—』, 高志書院, 査読無, 183-211, 2008年
 - ⑭ 富田淳, 「黄道周筆『草書擊蛇笏銘并序巻』について」, 『三の丸尚蔵館年報・紀要』第13号, 宮内庁・三の丸尚蔵館, 査読無, 13-22, 2008年
 - ⑮ 赤尾栄慶, 「漢籍善本紹介—京都国立博物館」, 『新しい漢字漢文教育』46号, 全国漢文教育学会, 査読無, 102-104, 2008年5月
 - ⑯ 赤尾栄慶, 「日本における写経の盛衰とその字すがた」, 『墨』188号, 芸術新聞社, 査読無, 58-61, 2007年10月
 - ⑰ 島谷弘幸, 「新出の継色紙の紹介と考察」, 『MUSEUM』第609号, 東京国立博物館, 査読有, 5-20, 2007年8月
 - ⑱ 高橋裕次, 「料紙加飾技法」(代表者・増田勝彦), 『文化財保存修復学会第29回大会要旨集』, 文化財保存修復学会, 査読有, 82-83, 2007年

[学会発表] (計9件)

- ① 島谷弘幸, 「平成21年度岡山県文化のつどい第2回講演会『古筆の魅力』」, 2009年9月12日, 於: 岡山県文化連盟
- ② 島谷弘幸, 「広島市立大学開講科目: 古典研究特別講義『装飾経と平家納経の書』」, 2008年11月15日, 於: 広島市立大学
- ③ 島谷弘幸, 「古筆の魅力 書と料紙」, 2008年10月18日, 於: 大正大学
- ④ 島谷弘幸, 「講演会シリーズ: 21世紀の価値観 第20回 日本人の心と書」, 2008年9月4日, 於: 財団法人 五井平和財団
- ⑤ 島谷弘幸, 「聖徳大学言語文化研究所公開学術連続講演会: 源氏物語と王朝の雅『平安時代の仮名文化』」, 2008年7月12日, 於: 聖徳大学
- ⑥ 島谷弘幸, 「仮名の成立と古筆の美」, 2008年7月4日, 於: 社団法人日本交通協会
- ⑦ 島谷弘幸, 「日本の書の魅力(醍醐寺に伝えられた遺品を中心に)」, 2008年6月8日, 於: ドイツ連邦共和国美術展示館
- ⑧ 島谷弘幸, 「爛熟期のかなの展開」, 2007年11月11日, 於: 現代書道研究所於オリンピック記念青少年センター
- ⑨ 島谷弘幸, 「文化財の保存と活用—料紙を中心として—」, 2007年11月9日, 於: 国宝修理装演師連盟定期研修会

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島谷 弘幸 (SHIMATANI HIROYUKI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・部長
研究者番号: 90170935

(2) 研究分担者

松原 茂 (MATSUBARA SHIGERU)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・上席研究員
研究者番号: 50000352
(平成20年10月より研究協力者)

神庭 信幸 (KANBA NOBUYUKI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・保存修復課・課長
研究者番号: 50169801

高橋 裕次 (TAKAHASHI YUJI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・博物館情報課・課長
研究者番号: 00356271

富田 淳 (TOMITA JUN)
独立行政法人国立文化財機構東京国立
博物館・学芸研究部調査研究課・課長
研究者番号：20227622

和田 浩 (WADA HIROSHI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立
博物館・学芸研究部保存修復課環境保存
室・主任研究員
研究者番号：60332136

恵美 千鶴子 (EMI CHIZUKO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立
博物館・学芸企画部・博物館情報課・情
報管理室・アソシエイトフェロー
研究者番号：60566123
(平成21年9月より研究分担者)

赤尾 栄慶 (AKAO EIKEI)
独立行政法人国立文化財機構京都国立
博物館・学芸部・上席研究員
研究者番号：20175764

丸山 猶計 (MARUYAMA NAOKAZU)
独立行政法人国立文化財機構九州国立
博物館・学芸部文化財課資料登録室・主
任研究員
研究者番号：80332138

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
太田 彩 (OTA AYA)
宮内庁三の丸尚蔵館・主任研究官

鍋島 稲子 (NABESHIMA TOUKO)
台東区立書道博物館・主任研究員